

農福連携の新しいカタチが始まる!!

企業農場 (株)西村×百人邑

経済レポート

令和3年10月26日2854号
(昭和39年4月22日第三種郵便物認可)

2021年 10/26
(火曜日発行)

多品種適量の野菜作りで人材育成

和食店 経営の西村が百人邑で企業農場

「安芸茶寮」本通 本通 である。

「然」然「巖遊庭」などの和食店を展開する西村(中区袋町4-14、西村真吾社長)は、(二社)百人邑(安佐北区安佐町飯室2126、竹添寛二代表理事)の農地の一部を企業農場として借り受けて、同社スタッフによる農業を始めた。

約600平方メートルの耕作放棄地を7月から開墾。現地の農業専門員に指導を受けながら、スタッフは草を刈り、根を抜き、耕すなどして土づくりを助んだ。多品種の野菜を適量ずつ栽培する方針で現在、ピーツ、サラダカぶ、エシャロット、金時人参、からし菜などを育てている。

農場責任者の川崎正太氏(然然店長)は「野菜作りの大変さを初めに知った。土に触れることが大切さ、みんなと一緒に汗をかき、達成感や達成感を感じることができた。現地のスタッフさんとの会話を勉強になる」と充実



味わうことができた。現地のスタッフさんとの会話を勉強になる」と充実

の様子が見える。野菜は季節ごとに種類を変えて栽培する予定という。西村社長は「自分たちが育てた野菜を料理に使う提供することで、食に対する意識を深めることができるし、野菜についての知識もつく。豊かな自然に囲まれた中で作業をしたり会食したりできるこの環境は福利厚生や人材育成にも役立つ」と話し、今後の活用方法に幅広いビジョンを描いている。